

インフォメーション

申込み・問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp



講座

市民ライター講座2017 ～取材・執筆体験で磨く！地域の情報発信力～

日時：10月4日(水)、10月10日(火)、11月1日(水)、11月7日(火)(4回連続) 18:30～21:30
10月14日(土)・15日(日)・21日(土)・22日(日)(いずれか1日、市民活動団体を取材し、原稿を書きます)
内容：書くことで、仙台のまちや人とつながろう！執筆のノウハウを学ぶとともに、市民活動の現場取材する機会を用意しています。市民の目線で情報発信する力を身に付ける絶好のチャンスです。
講師：三浦康伸さん、菊地弘志さん、大泉大介さん(河北新報記者)
会場：仙台市市民活動サポートセンター
定員：15名(先着順)
対象：書くことで、まちづくりに参加してみたい方
まちで活躍する人や市民活動団体の話を聞いてみたい方
地域活動やまちづくりに関心のある方
パソコンでメール送信が可能な方優先
参加費：無料
申込み〆切：9月26日(火) 定員に達し次第、申込み受付を終了します。



まち歩き

仙台ちよつとまち歩き 市民活動の現場を巡る
～聞く・見る・気づくのまち歩き 市民活動おじゃましまーす！～

◆まち歩きエリア：仙台市北仙台・北山エリア
日時：2017年9月30日(土)10:00～14:00(受付開始:9:30)
集合場所：地下鉄南北線北仙台駅北1出口
内容：普段の生活では気がつかずに通り過ぎているかもしれない市民活動の現場を巡る、大人の社会見学です。現場を見るだけでなく、実際に活動者のお話も聞くことができます。
参加費：無料 要申込み
定員：10名



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは
様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください
ボランティア活動をしたい／団体を立ち上げたい／組織運営の悩みを解決したい／他の団体や他のセクターと連携したい／自分のスキルを地域や社会に役立てたい…

今月の休館日 9月13日(水)、27日(水)
開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00
日曜日・祝日 9:00-18:00
休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ／地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
[HP]http://www.sapo-sen.jp [Blog]http://blog.canpan.info/fukkou/ [Twitter]@sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターや学生記者が、仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています！
▶市民ライター
http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1
▶情報ボランティア@仙台
https://ja-jp.facebook.com/jyoho.volunteer.sendai

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート]サポセンホームページからアクセス
いただくか、携帯電話等でQRコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2017年9月1日
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 太田貴 菅野祥子 松村翔子 鈴木美紀 宮崎真央 小野真璃子
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと 9

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2017 No.217

「ぱれっと」には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月の
ワクワク
ビト
Game Party 仙台
おおなみ ひとみ
大波 瞳 さん(28)

ボードゲームを通して
多世代交流を楽しむ

ボードゲームは、世界に数千種類もあるといわれ、現在も新しいものが制作されています。世代に関係なく誰もが楽しめるのも魅力の一つです。大波さんは、ボードゲームを楽しむイベントを、居合わせた人も参加しやすいカフェ等で開催し、交流の場づくりをしています。きっかけは5年前。友人の勧めでボードゲームに触れたことでした。ルールを教えあうことで自然に会話が生まれ、初対面でもすぐ仲良くなれる楽しさを感じ、活動を始めました。コミュニケーションに悩む人も、ボードゲームを通して交流を楽しめて友達ができ、人脈が広がります。その様子を見たとき、もっとこの活動を広めていきたいという想いが芽生えました。デジタルゲーム全盛の現代でも、人と人を繋げるコミュニケーションツールとしてのボードゲームの普及活動を続けたい。「自分の好きなボードゲームで、地元仙台を盛り上げていきたい」と今後の目標を話します。

取材・文 阿部えりこ

特集

地域を知り人と出会ってファンを増やす

新たなまちづくりの担い手育成

Game Party 仙台 / 交遊会

Twitter GameParty仙台@MHXX&ボドゲ
問い合わせ先 gameparty_sendai@yahoo.co.jp

ボードゲームを楽しむ場づくりと普及を目標に、2つの団体を運営しています。Game Party 仙台は、月に1～2回平日の夜にボードゲーム会を開催しています。場所は主に青葉区北四番丁にある「まなび×あそびカフェ仙台」。20代から60代までの約100名のメンバー登録があります。交遊会は、子どもを対象にイベントを青葉区内の市民センターにて開催しています。日時などの詳しい情報はTwitterにて発信しています。



地域を知り人と出会ってファンを増やす 新たなまちづくりの担い手育成

仙台市青葉区八幡は、四ツ谷用水やへくり沢など地形を活かした江戸時代の治水の痕跡が残る地域資源が豊富な地域です。どんと祭で有名な大崎八幡宮があり、すずめ踊りの発祥の地でもあります。ゆるやかなコミュニティ活動の中で地域の良さを再発見し、地域のファンを増やし、新たなまちづくりの担い手を育成する商店会と学校の教員有志の取組みを紹介します。

八幡町商店街ファンコミュニティ

八幡町のファンを増やしたい



八幡町商店会副会長
八幡町商店街ファンコミュニティ副会長
ほしまとし 星 聡 さん

×



東北文化学園八幡町応援隊
東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科教授
ひらのみきお 平野 幹雄 さん

専門家の力でまちづくりを応援したい

東北文化学園八幡町応援隊
(「八幡まちあるき」マップ作成の主要メンバー)
写真右より 平野幹雄(東北文化学園大学医療福祉学部・教授)
齊藤隆之(東北文化学園大学医療福祉学部・講師)
増田学身(東北文化学園専門学校インテリア科・科長)
八十八川淳(東北文化学園大学科学技術学部・教授)
佐藤直由(東北文化学園大学・副学長)
宮近重徳(東北文化学園大学企画調整課・係長)



八幡町のファンを作るミーティング

八幡町商店会では、毎月1回、地元の飲食店を会場にミーティングを開催しています。ミーティングの話題から、八幡町のファン作りを目的としたプロジェクトを生み出しています。この集まりは「八幡町商店街ファンコミュニティ(以下八幡ファンコミ)」といいます。八幡町商店会(以下商店会)と東北文化学園八幡町応援隊(以下応援隊)を中心に地元の人でも地域外の人でも、八幡町やまちづくりに興味があれば誰でも参加できます。八幡ファンコミ参加者からは「ミーティングが楽しいから次回も参加する」という声が多くあります。2016年12月には「八幡まちあるき」を発行しまちあるきなどで活用されています。楽しみながら町と町の人を知ることで、つながりができ、訪問者が増え町が活性化される良い効果が生まれています。

「商店会」から「ファンコミュニティ」へ

八幡ファンコミのスタートは2016年。商店会が店主の高齢化

などにより、1970年代に80名だった商店会の会員数が27名までに減少した年でした。同年4月に副会長に就任した星聡さんは、商店会の改革が必要だと感じていました。一方で、八幡町の魅力をもっと伝える場を作り、もっと学生など多くの人に足を運んでもらいたいと考えていました。「商店会という閉ざされた組織では活動に広がりが無い。誰でも入れて出入り自由な場を作ろう」と八幡ファンコミをスタートすることにしたのです。

平野幹雄さんは、星さんが経営する理容店の20年来の顧客です。二人は年齢が近いこともあり日頃からなにかと相談できる関係でした。商店会を改革するに当たって、専門性と第三者の視点を取り入れるため協力してほしいと平野さんに依頼しました。

平野さんは、大震災の教訓として大学と地域の関係性の構築の重要性を日頃から意識していました。また、学内においては研究室などの垣根を越えた連携も課題でした。平野さんは八幡ファンコミの一員として活動を後押しするために、学内の教員から有志を募り応援隊



連絡先
八幡町商店街ファンコミュニティ
Facebook ページ
<https://ja-jp.facebook.com/hachimannmachi.syoutenngai.fun.community/>

を結成。調整役を担っています。

まちを楽しんでファンから担い手へ


星さんは八幡ファンコミの成果を「八幡町の新たなファンができ、商店街から足が遠ざかっていた八幡町の住民に、商店街の行きつけの店ができるまでになりました」と語ります。この取り組み以降、商店会の会員数が2017年7月に36人まで増加しました。

平野さんは「学内の分野を超えた関係性を新たに紡ぎ出す事ができ、地域と連携するための仕組みを作ることができた」と応援隊の成果を語り、「応援隊の背中を見て、学生も自ら参加するようになってほしい」と将来を見据えます。

八幡ファンコミは応援隊という専門家の支援を強みとし、八幡町のファン作りとまちづくりの担い手育成にチャレンジし続けます。(取材・文 鈴木美紀)

ここチェック ジャズがあふれる駅！
長町ビッグバンドフェスタ2017

JR長町駅西口広場でビッグバンドジャズ(大人数編成のジャズ)の野外コンサートが開催されます。出演者は太白区の小学生バンドやプロのバンドなど8団体、迫力ある演奏を繰り広げます。秋の一日を生演奏を聴いて過ごしませんか？
開催日時:2017年9月24日(日)11:00~16:15 ※雨天決行
場所:JR長町駅西口広場 主催:長町駅前商店街振興組合
TEL 022-304-2321(事務局:阿部)
HP <http://n-bazaar.jp/>



市民ライター 生沼未樹

一般社団法人ふれいん・ゆに〜くすでは、自閉症や発達障害がいのある人が、その人らしく自立した生活を送れるようになるまでをサポートしています。晩翠通りの事業所にはカフェ「シャレおまち」を併設。就職を目指す利用者が、スタッフとして実践経験を積んでいます。

2011年12月に法人化。翌4月には18歳未満を対象に「放課後等デイサービス」を始めました。現在は「自立訓練」「就労移行支援」を合わせた3つの事業を行っています。利用者がプログラムを経て就職するまで、支援期間は最長で4年。決まった時間に起床し通所する生活リズムを整えることからスタートする方、パソコンやコピー機清掃などの実務を習得する方など、一人一人の様々な課題に対応しています。代表理事の伊藤あづささんは「できないことはダメではありません」と話します。大切なのは、本人が達成感を得て自分を肯定すること。一人で完結できる作業プログラムを個別に応じて提供しています。

シャレとは、実験で使う培養皿のこと。育つのは社会に芽を出そうと努力する利用者です。障がいのある人にとっての課題を第三者が気づくのは難しいことです。想像することが、理解への第一歩だと思いました。




▲コピー機清掃のトレーニングに励む利用者。

■連絡先
一般社団法人ふれいん・ゆに〜くす
仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4階
TEL 022-263-1402
Mail schale_omachi@yahoo.co.jp

お役立ち本 市民のネットワーク 市民の仕事術 I
著者:加藤 哲夫 発行:一般社団法人メディアデザイン

NPOなどが「社会をもっと良くしたい」と行動を継続させ成果を出すためには、周囲の理解や賛同、協力を得ることが重要です。少数でも、その考えや発言が力を得て、影響力を発揮していくには、意見や立場が違う人を排除しないで異質の人とつながることが必要になってきます。
NPOの先駆者と言われた著者が、自身のネットワークのつくり方の知恵と工夫を「技術」や「方法」として伝えます。



10月1日実施 赤い羽根共同募金 街頭募金ボランティア募集

募金をして、胸に赤い羽根をつけてもらい、照れつつ嬉しかった思い出一赤い羽根共同募金は、地域福祉を支える財源となります。自分の町を良くする活動に参加しませんか？
活動日:2017年10月1日(日)7:00~15:00(1時間から参加可)
募集対象:高校生以上の男女(個人・グループ可)
申込み締切:2017年9月20日(水)問い合わせ 仙台市共同募金委員会事務局
HP <https://www.akaihane-sendai.net/>
TEL 022-223-2026

